2026年度版

滋賀県内のみなさまへ

滋賀県産のJ-クレジット

びわ湖カーボンクレジット のご紹介



CO2削減を「価値」に変え、地域（滋賀県）で循環する仕組み

びわ湖カーボンクレジットは、県内のCO2削減活動によって創出されたJ-クレジットを地域で活用・循環させる仕組みです。

2026年度
創出・活用に関する相談窓口もあります
◀◀◀詳しくは裏表紙へ！

こんな方におすすめ！

- CO2削減の取組を活かしたい
- 企業や商品のイメージアップをしたい
- J-クレジットに興味がある
- カーボンオフセットを始めたい
- CO2ネットゼロやSDGsに貢献したい
- 何か環境にいいことをしたい

しがCO2ネットゼロムーブメント

詳しくはこちらから

滋賀県産のJ-クレジット
びわ湖カーボンクレジットのしくみ

活用　クレジットをつかう

クレジットを購入することで、自社のCO_2削減目標達成や環境PR、経済的利益のために活用することができます。

活用方法例

- カーボンオフセットに使う
- 温対法・省エネ法での活用
- 再エネ調達量として活用
- カーボンニュートラル行動計画の目標達成　など

創出　クレジットをつくる

温室効果ガスの排出削減や吸収量の増加につながる事業を活用し、クレジットを創出することで、クレジットの売却益と環境への貢献の両立が見込めます。

創出方法例

- 省エネ設備の導入
- 再生可能エネルギーの導入
- 農業での取組
- 適切な森林管理　など



活用メリット（クレジットを購入する企業）

- カーボンオフセットでCO_2排出量を相殺
- 脱炭素経営・ESG経営の推進に貢献
- 製品サービスの差別化
- 環境貢献企業としてのPR効果



活用メリット（クレジットを創出する企業・団体）

- クレジット売却による収益化が可能
- 地球温暖化対策への取組に対するPR効果
- 設備投資や森林整備のインセンティブに
- 新たなネットワークの構築



カーボンオフセットとは

カーボンオフセットは知る（排出量算定）」「減らす（削減努力）」「オフセットする（クレジット購入）」の3つのステップで行われます。

① 知る



- 排出活動の把握
  カーボンオフセットの対象における排出活動を明確にする。
- 算定対象範囲の設定
  自らの排出活動を考慮して決定する。
- 算定方法の記録、保守的な算定を実施

② 減らす



- カーボンオフセットの対象内外に係る削減努力を行う
- 削減努力を促す取組を行う

③ オフセット



- どうしても減らせなかった排出量について、クレジットを購入してオフセット（埋め合わせ）

びわ湖カーボンクレジット活用事例

CASE 01
イベントのカーボンオフセット

2025年開催の国スポ・障スポオフセット

大阪ガス株式会社

わたSHIGA輝く 国スポ・障スポ 2025



2025年9月～10月に開催された「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」の開催に伴い、滋賀県が創出する「びわ湖カーボンクレジット倶楽部」のクレジット351t-CO_2を購入し、国スポ・障スポ大会局へ寄贈しました。国スポおよび障スポの開会式における「会場内外の施設・設備の利用」および「製品の製造」によるCO_2排出量のオフセットに充当したうえで、障スポ閉会式の開催に伴い排出されるCO_2についても一部オフセットを行い、両大会の式典における実質的なCO_2排出量の削減に活用されました。

右写真「びわ湖カーボンクレジット倶楽部」クレジット贈呈式の様子（令和7年8月28日）
（左）滋賀県 岸本 織江 副知事　（右）大阪ガス 須藤 治 常務執行役員

CASE 02
イベントのカーボンオフセット

びわ湖マラソンオフセット

株式会社滋賀銀行

BIWAKO MARATHON2026



令和8年3月8日に開催された「びわ湖マラソン2026」について、寄付スキーム「未来よし+（プラス）」（※）を通じて、びわ湖マラソン大会実行委員会にびわ湖カーボンクレジット30t-CO_2を寄贈しました。これにより、大会開催時のシャトルバスなど大会車両や、全国から集まるランナーの移動による排出量の一部オフセットに貢献しました。

※脱炭素などSDGsに貢献する金融商品の取扱実績に応じて滋賀銀行が資金を拠出し、地域の脱炭素や生物多様性保全、スポーツ振興などを支援する寄付スキーム。

CASE 03
商品へのカーボンオフセット

ヨシマサタフシルクの販売

有限会社吉正織物工場





滋賀県長浜市の自社一貫生産工場で生産する、洗えるシルク「ヨシマサタフシルク」を使用したスカーフにびわ湖カーボンクレジットを活用しました。

一般的なシルクのお手入れはドライクリーニングで行いますが、洗えるシルクは手軽に洗濯機で洗うことができるので、その分CO_2排出量が減少します。それでも排出されるCO_2をクレジットでオフセットすることにより、CO_2排出量実質ゼロの商品となりました。

CASE 04
商品へのカーボンオフセット

和りんごサイダーの販売

株式会社ロハス長浜





戦国武将の浅井長政も食したとされる「和りんご」を活かした「小谷の和りんごサイダー」を販売しています。

長浜市湖北町で栽培されている和りんごを原材料とすることで、りんごの輸送にかかるCO_2排出量が減り、一般的なりんごサイダーよりCO_2排出量を抑えて生産することができます。その他、和りんごサイダーの製造により発生する削減しきれないCO_2をクレジットでオフセットしました。

あなたのアクションが 滋賀の未来とCO_2ネットゼロ社会につながります！

- オフセット商品を買う
- オフセット開催のイベントに参加する
- カーボンクレジットのプロジェクトに参加する

カーボンクレジットを創出・活用する企業や団体を応援

みなさんの行動が、カーボンクレジットを創出・活用する企業や団体の取組を後押しします。



カーボンクレジットの輪が広がり、CO_2削減や吸収の取組が進む

企業・団体の取組が増え、地域全体でCO_2を減らす活動が広がっていきます。



CO_2ネットゼロ社会の実現へ



びわ湖カーボンクレジット創出事例

CASE 01 森林由来のクレジット 滋賀県造林公社



県内の水源林において適切な森林管理を実施することでCO_2吸収量分のJクレジットを創出しています。

クレジット購入お問い合わせ TEL 077-522-8349
メール apc@morimoribiwako.com

CASE 02 森林由来のクレジット 綿向生産森林組合



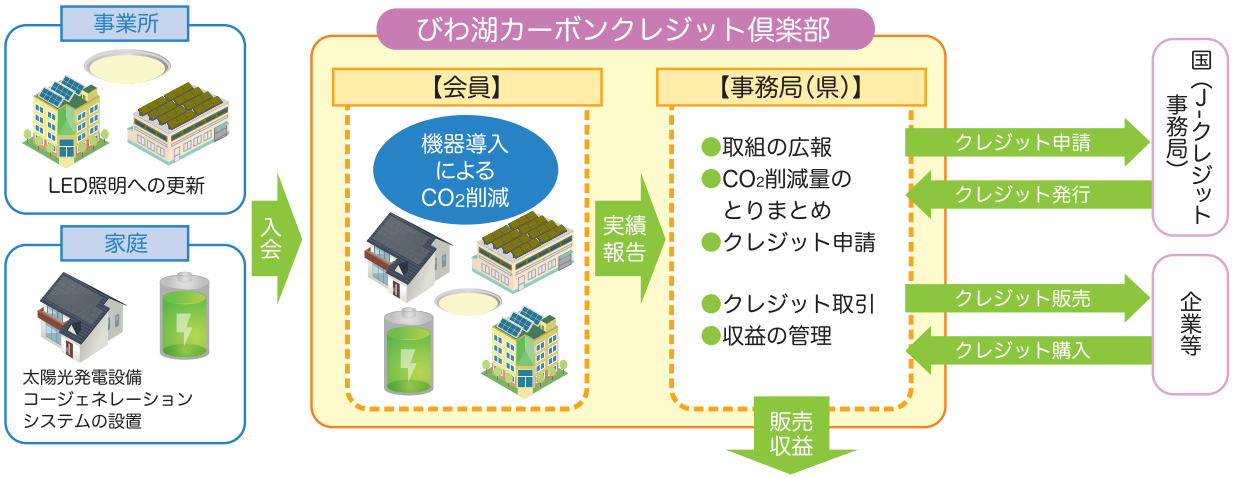
綿向生産森林組合で行う森林経営活動（適切な森林管理）によるCO_2吸収量について、クレジットを創出しています。

クレジット購入お問い合わせ TEL 0748-52-0010

CASE 03 省エネ・再エネ由来のクレジット 滋賀県がクレジット創出主 びわ湖カーボンクレジット倶楽部

入会・詳細はこちらから！

びわ湖カーボンクレジット倶楽部の仕組み



クレジットの販売収益は県内のCO_2ネットゼロにかかる啓発事業に活用し、県内に広く還元

「びわ湖カーボンクレジット倶楽部」に加入する県民、県内企業が設置した省エネ・再エネ設備で生み出されたCO_2削減効果を取りまとめ、国のJ-クレジット制度を活用してクレジット化することで、その環境価値を「見える化」するとともに、クレジットの取引により得られる収益を県内のCO_2ネットゼロにかかる啓発事業に活用するものです。

クレジット購入 お問い合わせ 滋賀県CO_2ネットゼロ推進課 TEL 077-528-3494



びわ湖カーボンクレジット相談窓口

カーボンクレジットの創出や活用に関する質問やご相談を随時受け付けています。
ぜひお気軽にお問い合わせください。

2026年度ご相談はこちらから

発　行 滋賀県CO_2ネットゼロ推進課
〒520-8577　滋賀県大津市京町四丁目１番１号
TEL 077-528-3494

しがCO_2ネットゼロムーブメント
賛同者募集中！